

新型コロナ「mRNA ワクチン」は今後、接種すべきか #エキスパートトピ

6/12 石田雅彦科学ジャーナリスト

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）のワクチン（mRNA ワクチン、以下、新型コロナ・ワクチン）に関連し、パンデミック中と後の超過死亡について日本の研究者からいくつかの論文が出されました。これらの研究では、日本における 2022 年、2023 年、2024 年に死亡率が上昇したことが指摘され、新型コロナによるもの以外の死亡数が増えたことが示されています。その理由として、新型コロナ・ワクチンが影響しているのではという見解もありますが、今後、私たちはワクチン接種に対し、どう考えていけばいいのでしょうか。

★若い世代への『ワクチン接種』について（中略）若い人は感染しても重症化しないし、副反応も比較的に強い

出典：スポニチ Annex 2025/6/9(月)

★新型コロナのワクチンの接種しなかった職員を隔離するなどした問題（中略）解決金として 150 万円を支払うことで和解する見通し

出典：関西テレビ放送 カンテレ 2025/6/10(火)

★ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健福祉長官（中略）予防接種に関して米政府の公式勧告を出す諮問委員会（中略）全員を解任

出典：BBC ニュース 2025/6/10(火)

★コロナは終わったわけではない。特に高齢者や基礎疾患のある人にワクチンを接種していただきたい

出典：TOKYO HEADLINE 2025/6/11(水)

エキスパートの補足・見解

日本は世界で最も mRNA ワクチンを接種した国であり、オミクロン株の出現後、ワクチン接種数が増えたにもかかわらず、感染者や死者が増え、この数年、超過死亡率が上昇しているのも事実です。ワクチンの反復接種による免疫抑制反応もあるとされ、スパイクタンパク質の長期的な生成による悪影響もあると考えられています。mRNA ワクチンは、抗原の量をコントロールできない、温度管理が必要など、効果の評価や取り扱いなどに問題があることが指摘され、mRNA を格納する脂質のカプセルに副反応を引き起こす危険性があることも危惧されていました。パンデミックを収束させるため、やむを得ず緊急的に使った側面があるわけです。

ただ、**超過死亡率の急増の理由を、**ワクチンの副反応だけに結びつけるのは早計でしょう。なぜなら、新型コロナのパンデミックは人々の受診態度などにも大きな影響をおよぼし、超過死亡率の上昇には高齢化や医療制度など、複雑な要因が関係していると考えられるからです。新型コロナ・ワクチンの効果は時間とともに次第に低減することがわかっていますが、依然として一定の感染予防効果はあるとされ、特に重症化を予防する効果は非常に高いとされています。

石田雅彦 科学ジャーナリスト

法政大学経済学部卒業、横浜市立大学大学院医学研究科修士課程修了、医科学修士。近代映画社から独立後、醍醐味エンタープライズ（出版企画制作）設立。紙媒体の商業誌編集長などを経験。日本医学ジャーナリスト協会会員。禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議常任理事。サイエンス系の単著に『恐竜大接近』（監修：小島郁生）『遺伝子・ゲノム最前線』（監修：和田昭允）『ロボット・テクノロジーよ、日本を救え』など、人文系単著に『季節の実用語』『沈船「お宝」伝説』『おんな城主 井伊直虎』など、出版プロデュースに『料理の鉄人』『お化け屋敷で科学する！』『新型タバコの本当のリスク』（著者：田淵貴大）などがある。